

神の勇敢な戦士であるギデオンの内在的な意義

聖書：士第6章—第9章

I. ギデオンは、神の勇敢な戦士として神によって起こされ、神によって遣わされて、ミデアン人の圧迫から（士 6:1—8:32）、イスラエルを救いました（6:12-14. 参照、ヨハネ8:29）。わたしたちは、ギデオンの成功の内在的な意義を見なければなりません：

A. ギデオンは、注意深く神の言葉に聞き従いました。神の言葉はその当時、イスラエルの子たちの間でまれでした：

1. 主は常に、わたしたちの耳を開いて、主の御声を聞かせることを願っています。それはわたしたちが神のエコノミーにしたがって、物事を見るためです——啓1:10, 12. ヨブ33:14-16. イザヤ50:4-5. 出21:6。
2. その霊が諸召会に語っているとき（啓2:7前半）、わたしたちはみな、開かれた、割礼された（エレミヤ6:10. 使徒7:51）、清められた（出29:20. レビ8:23-24. 14:14）、油塗られた耳（17, 28節）をもって、その霊の語りかけを聞く必要があります。

B. ギデオンは、神の言葉に従順であり、それにしたがって行動しました——参照、ヘブル11:32-33前半：

1. 新約には、従順と服従というキリストの命があります。もしわたしたちが霊にしたがって歩くなら、自然に律法の義の要求を満たします——ピリピ2:5-11. ローマ8:4。
2. もし律法に来るわたしたちの態度が、文字の戒めだけを顧慮しているなら、人を殺す文字の面の律法を持つでしょう。しかしながら、もしわたしたちが律法のあらゆる部分を、わたしたちが愛している神によって息吹き出された言葉として受け取るなら、命を与える霊の面の律法を持つようになります。そうして、律法は機能して、神を愛して追い求める者であるわたしたちの中へと、神ご自身を命として分与します——詩119:25, 116, 130. II コリント3:6. II テモテ3:16-17。
3. バイタルであることは、生き生きとしており、また活動的であることであって、それはその霊で内側も外側も満たされることによってであり、また御言の中へと入り込んで、いつでもどこでも福音を宣べ伝え真理を教えて、主を拡張、開展させることによってです——ダニエル11:32後半. 使徒13:52. 4:8, 31. 13:9. 2:38. 5:32後半. II テモテ4:1-2。

C. ギデオンは、バアル（カナン人の主要な男神）の祭壇を打ち砕き、アシラ（主要な女神）を切り倒しました。この事は神の心に触れました。なぜなら、神は偶像を憎んでいたからです。神は偶像を、神の妻であるイスラエルと淫行を犯した男であると考えていました。内在的に言うと、偶像とは、わたしたちが内側で、主以上に愛し、またわたしたちの生活の中で主に置き換わっているあらゆるものです——士6:25-28. エゼキエル14:1-3。

D. ギデオンは、彼の父に属するバアルの祭壇を打ち砕き、アシラを切り倒すことによ

って、彼の父との関係と社会の享受を犠牲にして、エホバに従いました。ギデオンがこのような事を行なうことは、自分自身の権益を犠牲にすることを要求しました。彼の犠牲は、彼の成功の強力な要因でした——士6:28-32。

E. 上記の四つの要因の結果、ギデオンは褒賞を受けました。すなわち、エコノミー上の霊が彼の上に臨みました（士6:34）。このゆえに、彼は力強くなり、わずか三百人で二人の首長と二人の王を打ち破りました。これらの首長と王とに属する民は「いなごの大群のよう」であり、そして「彼らとそのらくだは無数で」した（士6:5. 7:25. 8:10-12）。ギデオンにおいてわたしたちが見る絵は、神との結合の中で生きた人、すなわち神・人が、神の言葉を成就し、神のエコノミーを完成するというものです。

II. 勝利者が選ばれることは、神がギデオンとその三百人を選んで、ギデオンと共に戦ってミデアン人を打ち破ったことに見られます——士6:1-6, 11-35. 7:1-8, 19-25. 8:1-4:

A. ギデオンについての記載は、どのようにして勝利者になるかをわたしたちに示しています:

1. わたしたちは自己を知り、自分自身が最も小さい者であることを認識しなければなりません——士6:15. エペソ3:8. マタイ20:27-28. ガラテヤ6:3。
2. わたしたちは、神の永遠のエコノミーの中心性また普遍性であるキリストの天的ビジョンを見なければなりません——士6:12. 使徒26:16-22. コロサイ1:17後半, 18後半. I テモテ1:3-4. ピリピ3:8, 10。
3. 善であって、喜ばれ、完全な、神のみこころにしたがって、わたしたちは自分自身を生きた犠牲として神にささげて、キリストのからだの実際と生活を持たなければなりません（ローマ12:1-5. 参照、士6:21-24）。わたしたちは、啓示録第2章と第3章の勝利者に対する主の召しを聞き、それに応答する者たちとならなければなりません——啓2:7, 11, 17, 26-28. 3:5, 12, 20-21. 詩歌647番。
4. わたしたちは主の証しのために、自分の心、生活、働きの中にある偶像を打ち砕かなければなりません。そして神が一方で、わたしたちを命、光、力としてのキリストを享受することの中へと導くことを、わたしたちは認識しなければなりません。また神はもう一方で信実な方であって、わたしたちに経済的な困難、感情的な苦しみ、肉体的な苦しみを経過させ、天然の善さを失わせて、そうしてわたしたちがキリストを自分の満足とし、キリストで満たされるようにして、キリストを万物のうちで第一位とならせることを、わたしたちは認識しなければなりません——士6:25-28. ヨハネ10:10. 8:12. II テモテ2:1. コロサイ1:17後半, 18後半. I ヨハネ5:21. ヨブ22:24-26. マタイ10:35-39. II コリント12:7-9. ヨブ1:1, 22. 2:9-10. 3:1, 11. II コリント4:5. I コリント2:2。

B. 勝利者がどのようにして選ばれるかは、三百人が選ばれることにおいて見られます。神は、ギデオンと共にいる民が多すぎることを告げることによって、神がイスラエルのために戦うことを示しました。一回目の選びの結果、二万二千人が去りました:

1. 去った者たちは、自分自身の栄光を願っていました——士7:1-2. ヨハネ5:41, 4

4。

2. 去った者たちは、恐れおののいていました——士7:3. マタイ25:25. 参照、申20:5-8。

C. 二回目の選びは、民がどのように飲むかによって決定されました。口で直接飲んだ者は、神によって除かれました。手で水を口に運んで飲んだ者が、自己を否む者であるという理由で、神によって選ばれました。このようにして飲むことによって、彼らは敵によるいかなる攻撃に対しても、目を覚まし続けることができました——士7:4-6:

1. 放縦する機会があってもそうしない者は、自己を否む者です。彼らは十字架によって対処されており、神の戦いの日に神の定められた御旨のために、個人の安息と慰めを犠牲にします——士7:7. 詩110:3。

2. 勝利者は神の栄光のために絶対的であり、主を怒らせることと主の臨在を失うこと以外は何も恐れません（出33:14-16）。彼らは十字架によって自己を対処します（Iヨハネ3:8. ヘブル2:14. ローマ6:23. ガラテヤ2:20）。

D. 神がギデオンに三百人を与え、彼らを一体にしたことは、ミデアン人を打ち破り、神に勝利を得させるために、ミデアンの陣営に転がってきた「大麦のパンの丸いかたまり」によって表徴されています——士7:9-25:

1. ギデオンとその三百人は、一人の人のように、一つ思いで、共に行動し、活動しました。この事は、その霊の中の一と、からだの中の生活を表徴しています。彼らが復活の中で共にブレンディングされたことは、最初に熟する穀物である大麦で表徴されており（士6:16. サムエル下21:9. レビ23:10. Iコリント15:20）、一つパンであることは、召会を表徴しています（Iコリント10:17）。

2. 召会が一つパンであるというパウロの思想は、旧約聖書の穀物のささげ物から取られました（レビ2:4-5）。わたしたちは多くの麦粒です（ヨハネ12:24）。それは、わたしたちがひかれて、きめの細かい小麦粉となり、油とミングリングされて、召会という輪型の平らなパンとなるためです（Iコリント12:24-25）。

3. すべての同労者と長老は、互いに牧養し合い、互いに愛し合って、からだの生活のための模範、すなわち、調整され、ブレンディングされ、十字架につけられることを学んでいる者の模範となるべきです。それは、その霊によってあらゆることを行なって、キリストを互いの中へと分与し、実際的なからだの生活を得るためです——ローマ12:1-5. 参照、歴代下1:10。

E. ギデオンとその三百人が戦って労苦し、なおも全会衆が敵を追撃し、また収穫物を刈り取りました。この事は、わたしたちが勝利を得るとき、からだ全体が復興されることを表徴しています。ついには、平安としてのエホバ、すなわちエホバ・シャローム（士6:24）は、地を支配するようになります——士7:22-25. 8:1-4. コロサイ1:24. 詩128:5. イザヤ32:17. 66:12。

F. ギデオンとその人たちはミデアンの王たちを追っていた時、「疲れてはいたが、なおも追い続け」ました（士8:4後半）。わたしたちは神のあわれみを得て、神の永遠のエコノミーの実際を供給し、またその中で生きているので、落胆しません（IIコリント4:1, 16-18）。わたしたちは疲れ果てるまで労苦するかもしれませんが、わ

た私たちの内で力をもって活動している神の活動にしたがって労苦します（コロサイ1:28-29。Iコリント15:58）。

Ⅲ. わたしたちは、ギデオンの失敗のかぎの内在的な意義を見なければなりません：

- A. 第一に、ギデオンには慈しみがありませんでした。彼は自分を支持しなかった同胞を殺し（士8:16-17）、神の第六の戒めを破りました（出20:13）。キリストは神の慈愛として、わたしたちを悔い改めに導きました（ローマ2:4。テトス3:4。エペソ2:7）。
- B. 第二に、ギデオンは肉の情欲にふけり（参照、ガラテヤ5:16。ローマ8:4）、彼の肉的情欲を少しも抑制しませんでした。この事は士師記第8章30節によって示されています。この節がわたしたちに告げているのは、「彼には多くの妻がいた」ので、七十人の子がいたということです。それに加えて、シケムにいた彼のそばめも彼に一人の子を産みました（士8:31）。この事によって、ギデオンは第七の戒めを破りました（出20:14）。
- C. 第三に、ギデオンは民を治めることを拒絶することにおいて良い事を行ないましたが（士8:22-23）、彼の民の分捕り物をむさぼり（金の耳輪）、こうして第十の戒めを破りました。そして彼らはそれをギデオンに明け渡しました。ギデオンは民から取った金で一つのエポデを作り、このエポデはイスラエルの子たちにとって偶像となってしまうました（士8:24-27。出32:1-4と2節のフットノート1）。その結果、ギデオンの家族とイスラエルの社会全体が腐敗しました。
- D. 士師記は、キリストの予告である良き地の享受に関する書です。ギデオンの成功は、キリストを享受するすばらしい機会を得ることを示しますが、彼の失敗は、キリストを享受する機会を失うことを示します。

Ⅳ. ギデオンの性にふけることと金をむさぼることは、偶像礼拝に導きました。むさぼりは偶像礼拝です（コロサイ3:5）。淫行もむさぼりも、偶像礼拝と関係があります（エペソ5:5）。ギデオンの失敗は、わたしたちが性と財物の事柄を対処することで、厳格な制御を行使する必要があることを見せています：

- A. イスラエルの王国の中で栄華を極め、またその王国の輝きが最高潮に達したソロモン王は（列王上4:34。8:10-11）、当初は神を畏れ、神を愛する人でしたが、最終的に彼でさえ、彼の多くの外国人の妻を通して、偶像礼拝者となってしまうました（列王上11:1-13。参照、43節のフットノート1）。
- B. ギデオンが死んだ後、イスラエルの墮落が、エホバ・彼らの神を捨てることにおいて、またカナン人の偶像を礼拝することにおいて開始しました。この事は、彼らが肉的情欲にふけるという結果となりました。また、ギデオンのそばめの子アビメレクが、ギデオンの他の七十人の子たちを殺しましたが、もう一人の子ヨタムは逃れました——士8:33—9:57。
- C. ヨタムは、アビメレクの統治をいばらの統治にたとえて、それを大胆に宣言しました。この統治は、オリブの木、いちじくの木、ぶどうの木のような者たち（彼らは野心を拒絶し、神の民の供給の経路となります）とは相対しています（士9:8-13）。アビメレクが自分の兄弟七十人を殺して自分の父に行なった悪に、神は報いました（9:14-55）。また神はシケムの人たちのすべての悪を、彼ら自身の頭にもたらし、

こうしてエルバアル（ギデオン——6:32）の子ヨタムののろいが、彼らに臨みました（9:56-57）。

- D. ギデオンは彼の成功において自分自身を神に結び付けましたが、彼の失敗においては自分自身をサタンに結び付けました。神を捨ててサタンに結び付くことは、この邪悪な者の内側にある内在的な野心の中へと入り込んでしまうことです——イザヤ 14:13-14。
- E. わたしたちには、主と離婚する何の権利もなく、主を捨てる何の理由もありません。わたしたちは、主を受け入れ、愛し、誉れとし、尊び、尊重し、高く上げ、彼に結び付かなければならず、またサタンを極みまで拒絶しなければなりません。そのとき、わたしたちは祝福されるようになります。エホバを自分の主、かしら、王、夫とするものはみな（国、社会、グループ、個人）幸いです——詩33:12。